

# 言葉での応答による、乳幼児との「応答的なかわり」についての研究

人間科学部  
子ども教育学科  
准教授  
三原 詔子



## 研究シーズの紹介

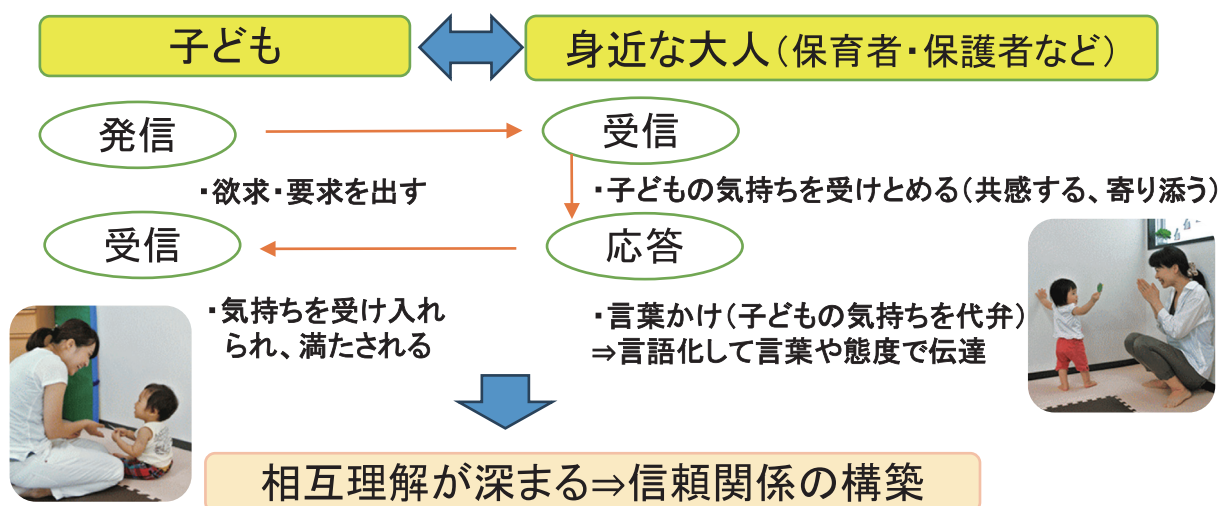
乳幼児期は人間形成の土台を作る大切な時期です。子どもは身近な大人とのアタッチメントにより、自己肯定感、自己有能感などを育んでいきます。そのため、保育者や保護者には子どもの欲求・要求を受け止め、「応答的なかわり」ことが求められます。

本研究では、子どもの発言、行動（表情やしぐさ）から、子どもの気持ちを読み取り、言葉による応答を意識することで、乳幼児への理解を深め、関係を構築していく方法について検討しています。

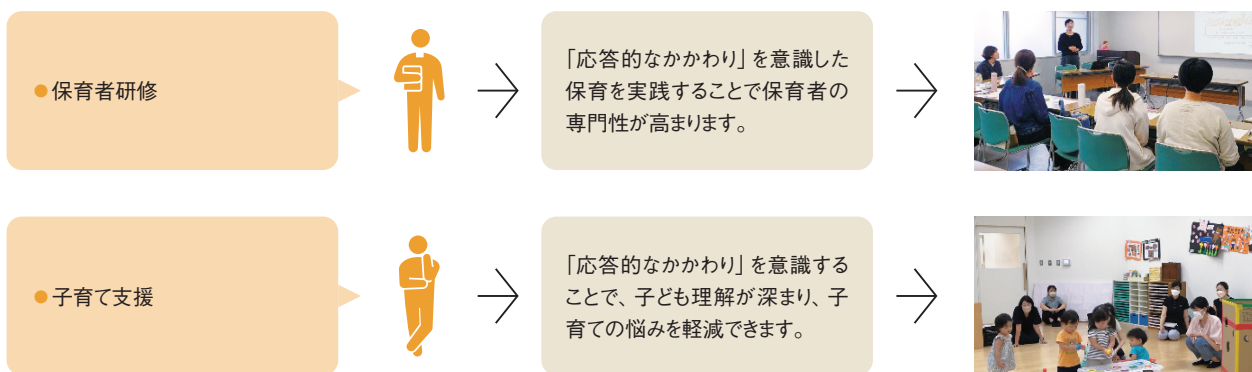


### 保育技術

- 子どもの主体性を尊重した保育の実現が可能となります。
- 子どもとの関係を構築する技術で、子ども理解を深める効果があります。



## 期待される活用シーン



### その他の研究テーマ

・保育内容「言葉」の指導法に関する研究